

「X線診断へのアプローチ 5 腹部実質臓器—肝胆膵腎副腎他」

慶応義塾大学助教授 平 松 京 一 著
聖母病院放射線科部長 平 松 慶 博

順天堂大学教授
北 川 龍 一

平松先生御兄弟は、京一先生は私の東大時代に、また慶博先生は筑波大学時代に御一緒に仕事をさせていただいたという関係で、御兩人ともよく存じあげている仲である。

この御兄弟が力を合わせて一書を成されたということは誠に御同慶にたえない。

影像診断は今や各分野において診断学上欠くべからざるものであり、最近では単なる X 線造影のみならず、CT、超音波、NMR など機器の進歩に伴ってますます精密度が増してきた。

一方、医師や医学生の方からすれば、これらの機器を能率よく使いこなす能力が要求されてくる。しかし、日進月歩の検査機器を用いた診断学に精通することはなかなか容易なことではない。

読影法に関する著書は最近数多く出版され、医学徒に如何に早く、確

実な読影力をつけさせるかについていろいろと工夫がされているが、実際にはなかなか当を得たものは少ない。

今回平松御兄弟の著書「X 線診断へのアプローチ 5、腹部実質臓器編」を読ませていただいたが、組み立てのユニークさ、症例の豊富さにまず感心させられた。典型的な症例を 50 症例も集めること自体大変であるのに、X 線写真も鮮明でわかりやすく、またこれに付随した他の造影法、CT 写真、超音波写真など各々の症例に揃っているものを選ぶということは至難のわざであり、著者らの持つ症例の豊富さに驚くと共に、これをここまで整理された努力に対し敬意を表したい。

まず提示されている写真はまことに鮮明であり、選択が適切である。次に、この写真に対する“Q”がよい。これをみると、この写真読影の

プロセスが理解され、続けて読んでいくうちに自然と読影法の要点が身につくというものである。更にこれの理解を深めているのが線画によるスケッチである。この図もまた当を得ている。このあたりに著者の教育者としての長年の経験が如実に表れており、同じように若い人たちに教育していかなくてはならないわれわれにとっても教えられることが多い。

解答もまた明快であり、スケッチと相俟って誠に理解しやすい構成となっている。

更に「ノート」は簡潔で要を得た表現でこの疾患の理解を高めている。

このように本書は単なる X 線診断学のトレーニングのための書を越えて、X 線写真を通して 1 つの疾患を総括するうえから、医学徒にとって非常に能率のよい学習ができる優れた書である。

私はたまたま私の専門分野の 1 篇を通読したのであるが、是非他の 4 篇も読んでみたいという要求にかられている。

近來まれにみる名著である。両先生に心から賛辞を送りたい。

B 5 判 254 頁 図 96 写真 208
1986 ￥4,800 ㊦ 300

医学書院 刊